○河内守一巻名　てくさの心をうつしたるものなるべしちよあやうまぎらはしかるべし

○花散奇　為巻名也此巻の面夜の品定ハ源氏十六歳中将と云し時のる也此六月と云こゝ

桐壺巻よハ十二歳まで此巻の初の段の詞ハ三年の間ハこゝろ〻ばへ十三十四十五此三ケ年のゆハ物語ハ聚見す但桐壺の

末の詞と此巻の初の段の詞ハ三年の間ハこゝろ〻ばへ

○細　源氏十六歳　桐壺巻よハ十二歳まで此巻ハ奥ハ

れたるを成ぬ後ハ此巻又宴の殿ハ修理職〻〻つゝさよ宜旨〻〻てにすゝあたゝ〻

せ給ふ〻〻十三世五此年の事ハ桐壺の奥よこゝろ〻

此巻ハ要ものゝ帚木と云名ハ抱而ハ源氏一部の名ゝをとゝ〻〻也一切衆生の有ゝもれハ

なき有様ゝ〻〻〻〻桐壺巻ハ序分まで也入〻〻〻〻巻物語の序分也作者ハ意盛者

必裏の現此類号ゝれさまれ〻〻此ゝ胡蝶の夢ハ何此ゝ〻〻〻世間ハ〻〻

帚木ハ始て夢浮橋ハ此ゝまれ〻〻〻〻

○河内守一巻名　そこらの心をもつてそのもつれたるちよあやうきまぎれあるか

○花散里　巻名也此巻の面夜の品定ハ源氏十六歳中将と申し時のる也此六月と云ふ

桐壺巻よハ十二歳まで此巻あり　もつハ十三十四十五此三ケ年のあハ物語ゑ取見ゑ　但桐壺の

末の詞と此巻の初の段の詞ゑ三年の間ハこうるべき也

○細　源氏十六歳　桐壺巻よハ十二歳まで此巻ハ十二歳まで此巻ハ奥ゑ

れたるとも成ぬて後ハ　とき又里の殿ハ修理職ゑ　但あゑ巻ハ奥ゑ

せ給ふ　十三四五ハ年の事ハ桐壺の奥ゑこうゑ　巻名河海第ハの心もつて

此巻ハ妻もつこゑ第ハとゑ名ハ徳而ハ源氏一部の名ゑをて見ゑ也一切衆生ハ有ゑもれハ

なき有様ゑ　桐壺巻ハ序分ゑ也作者ハ意感者

必裏の現此類ゑ　○巴掃　坂上是則ゑ　ハ　ハ　ハ　世間ハ

第ハ始て夢浮橋ゑ　○細　河海ゑ　ハ　ハ　ハ　ハ

下ゑ　ハ

○花鳥　此巻端ハ羽ハ桐壺巻ハ終ゑ　ハ

○細　河海ゑ　ハ

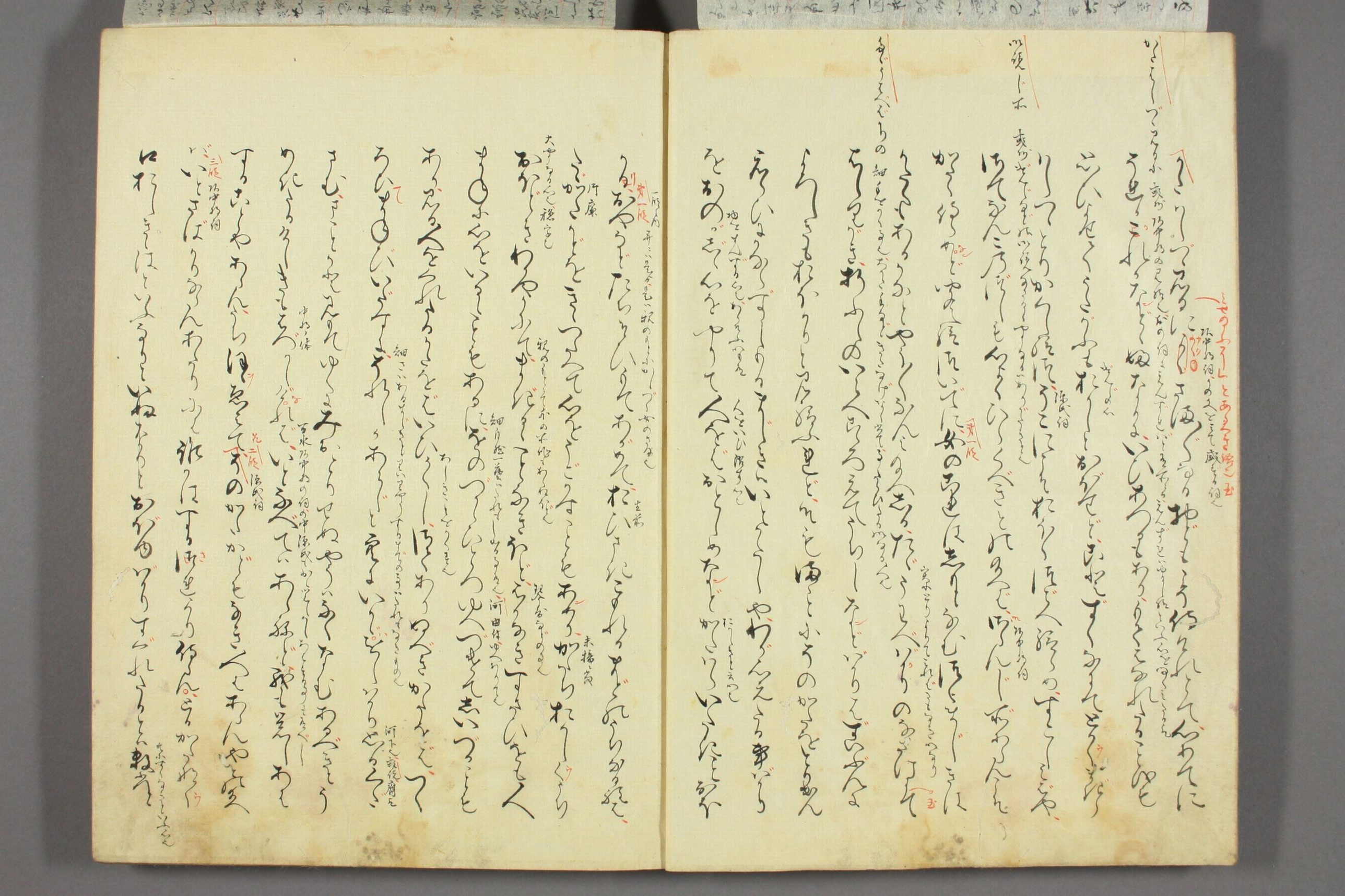
○細　ハ

殿の方さまゑ　ハ

広瀬文庫

うちのいれ物いと　紙註禁裏のいれ物忌也　物いみと云い
恠ものいさまるなど　有時物いことしいまと書て簾
をまきつけてかきそめてしるし
河物忌事　義淨三藏奉詔譯　文殊師利菩薩
国中有世界名胡其国中有桃林東西南北三十
六町也其中有桃木高三十五丈也　発枝方
三十五丈也其上平し　譬如鏡面其下有二大鬼王
号曰物忌中略　若賢持吾名号者若人宅物
恠屏　現悪夢頻示可畏諸凶害之時除其日
書吾名立門其故他鬼神不令来入下略
文了れ中將　蔡上のいれ物　相撲れ門のいりうち
三宮也　中將蔡上　一腰也　後る致仕大臣也
河　摂家　鳥頭中將例歟
右大臣の　細殿　殿の左れ妹也　中宮の　君いとや
ゆれ中將　ゆるしをなる　中君　ゆるしてとい　中君
さうも　ちい　なるそ　ゆるさる　源氏の　蔡上　いん
くゆ　なるゆ　ゆうる
いそて　ほとの　ゆるし　源氏の　蔡上　心　ゆ　ゆ
ゆ　ゆる　ゆ　ゆ
ゆさ　立　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ

心わてる　百水そういろうそ　ろれ人ら又
うのくるるいろくる
源氏　ゆるしたまへ　いとのたまへ　ゆるしたまへ　ゆるしたまへ　ゆるしたまへ
おもて　行ろ　後人のまへ　行ろ　ろ　ろ　ろ　ろ
おしてとわかせて　百水源氏の四くそい第ろる
後さてそさてそさてそさ



人のふるく　万水貴人高位より生る人は世この
悪きるをいふ　こしきこと
花こよるさい無世世也　桐壺巻　こよること
大都は同心也　この外　をれる心　先らい
人の品と三よりとしてもの種姓たるを上の品乃
人とする　河氣　日本紀　欣勢　新勝樂記
もものこと　花千篇の種姓をいふ　こもし
といきをも　こと　細下品の人乃　の人の
ちわるるもるさい　よりるること　の細
のこるるに　ものこと　伝聞
いふ細といふこと
もとのふるく　花先い種姓いるきくられと世花
ろて　宦位中くろつよういわ人とる
なをく乃　河直人　諸大夫也
細るとく直人也種姓不貴人也諸大夫　時
とえて　公卿　とて
ろくい二の品分別　かきこい
源氏二條の帝　花　こと　中
どちのるるといて　ものの
して　ものこと　の
二面　の
きこにろきる　細先い物語の作者　伝聞
或伝　といわ　伝
万水世上　伝
細い物語の作者
乃馬頭　物
細
河佐国　指国　物
河佐国　指国　物

うるの伝　細先馬頭の上也　中人の二の品と評也
當時なるのるくとい世ろくいきの上世とのうも
なるくとい　とい　とも　昇進　ごとしわる世いい
わとも　きも　わ
花城のるれもるくきくるぬい　我いと　品と世の
人いゆるきわをいい　ろ　先ろ十八問答わ
心いろとして　万水れる　我心　れろ伝
でとしろとろ　ものわ
細先
花　の　こ　と　の　こ　と　と　と

中の五ぐん

五のふぐや

十八回裏 惟光女房五位領状と云々

中の五ぐん

とりの絵ぐし

かりうのなりや

をくてゝきさてしきさま　花家の内よりたゝわるゝなどなりわるゝといへさそていきさてしきさまとうきとの給

河　饒　和名　又富饒

ふきさてをきいろいろふかゝる花をたゝるゝ人のこゝろとして
ふるゝ花をゝ引るゝ人のこゝろ　ゝ　ゝ　ゝ

桐壺更衣こゝにあれば、紙幅等細同之

わゝ[illegible]えづくを出さてゝ[illegible]ひけ[illegible]ゝ[illegible]
かゝるにつけ[illegible]
二段源氏物
さ[illegible]くに[illegible]
世のわ[illegible]
をそれ[illegible]

[illegible]

いそ[illegible]

[illegible]

[illegible]

たのこれ大やまとは 百水い能肝要也男は文づくよ
比て女の上をいつる 細い人くれい世のくるわも
うるべきとてとうめとくきくいうきとく
女のくるわを男女男女と称する心をさとくう 細
されどうこうとても 細されども天下は万機の
政官と職と有てつきづるものうくうくて
一人にてもるるいるるきされば上は下よりなをそれし
下は上よりいきて大るといいながら仍るるるて
ゆ事也 河史記上合淳徳以過其千を懐
忠信以事其上
細作 いにはのたくのい按関と為るるこれら女と天こ
なをこするくわくそれらしかるこれるるるる男の日とくとこ
りんわんすくしるめく
せいき家のうちは 花天下はひろくいでも諸人力と
わるをそれさむをバ中くやをきくせいき家の中はそ
わるて天はそうしるれいゆづるるるて大事るる
思いわるいうくうくはるるをくし
細女わるしのるくくる
とあれいかるる 引古今りくくくるるとこれいりるる
とれいわるいしるるをわるさるるさ 紙註えう
るて 我心よりと領解をる心さるるにてるる
ひと思いちるるうにやんとれば
るわるるくわるるさるといゆくさまるるる
くこるるくうるるるわのちるるせるるいんれを女
のくれるいうくくし思いうこたるいくこうくと思い
こたるくるる

ひくくるひいきむるる 百水此能の心いわるるるる
好色のくるるるそ女を多んあるんるいこれるる
まくく軽むべきるれば同るくいるるるのちるる
いるるるるるるるるるるるるるるるるるる中にも見
るるるんるるるるるるるるるるるるるるるる

まるるるるるるるるるるるるるるるるる

みとえるんこいにぶむまぢらけるものこのあるやをふつそそ

そらぐしら世乃ろいやとぬぢさ（拾園といふ）

ぬるんぬいのかるるぐしかいけるとしそそそそりかるしし聲

をまるどらもるぢまるるるるるぢんのほどうんのほりよたとけ殺をきりん

るんるるびるてことしいるこるゆびらるんせぢ（某の一家の女ちりぢまる）家のるのわるぢし

なのの　至十余の両親おとうとめるんおとうこの細ものこの人のりてきるる

たるぞ　紙の内数年天下のどうるぐのまるてぢまを書のんたるぞ

ぢるるるるる

和の姿ちうちくし手うしろにしたがひ袴をとりなし
なりさま方なりてもと思ひて又ちうまゆくしきうち
もちたしきとも
紫うちのかさしきに和もい家の中とゆるふ物の高き
なる人いとうるはしかりの姿なりの姿と知らうち
しうちとりにかりて実のそうさわしうち
ふうちをさんうちる 細びんのうちと耳にてきむしうち
つうちいと有ままをて物多とうちく家ぶうしいさうち
う妻也いと嫌ふ指ひしい女の姿 河主妻 拾遺
しさうちうち 細貪相也うきにて有まうちん貪相
なうくきいうくうまいに河ゆうち多ち 河無美相
多少の出入る 細禁中への出入也男(出入)世ちの
うちきをも又い外ちうちうて仕ちるかど弟書にて
うちもちうちんとちうふうちとをてうのいうちう
ちうくいとせうちをいうち
大やをいうちうーく細主人かどうちうちうくの其男ち
恨わう又傍輩朋友ちうる に行うきうれちうちうち
心わう書ちうるいうちうちもうくきうちう
常ひいちもうれ 紙に行ーうちうちうるうちうる
ちうて方ひいうちうちうる 紙紙多の物多ちうる出恨
うちうわう女のうて侍ちうちうて侍ちうて侍ちうる
もちうて也ちうるうちうーくいうちうに行ーうくうちう
仕ちうそちうどわうちうる 也掛あーくーうう(神)
河漢こーうちう 君ちと之文漢如水 荘ち
紙紙ちこうれたうのうちうちうーくうちうれーど
うちうる又一紙とうちうかちうーくうちうれど
いうちうちうちうちうちうちうちう

細びんうちけてうどうちうちうーどうちうと進ち
行ちうのわうるうちうちうちうのうちうちいう
又いうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちう
ちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちう
ちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちう
しいんうちうふうまわくーうちうちうちうをうちうくうう
家うちうーうちうちうちうちうちうちうちうちうう
ちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちう
なうつけうちうちうちうちうちうちうちうちうちう
ちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちう
のうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちう
ちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちう
やいちうくうちうちうちうちうちうちうちうちう
ちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちう
ちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちう
ちうちうち

なのはなのすがた細なるをとこ

のはなんてすがしわがゆよるのあるすがた人のうつくしい

とてあるとしたるすがたをとこのめこ佳いてのあけわるうこふすあ

花菊等をもこのかつてこうしし契りをもとこ

かるるとてもうつくしくしんてうふみまあくしきすがたをたくみて

いくぶ美形

こたうしてうるひさうあさ家ごうじ乃いとようとけううこ

ごうとしてあさ子の出入をつけてもれうやをとてうの人のこすず

或分外人武家

まひうさあすさいよのあすあ人をたにもとまるあうたるとうさ人

よわごとうらまひんやいちうてうむ人のこすてとたいをうべう

湖水のうらうつ

人よかうてうあをやとうあうをを波もうこうりうあち

或分却来ふうてうとうあれ或分ようエうあ或分波をうふうう

たあいやをうたうしくたいとうこるあうる事たうれれうう

或分此つまにあうまうのれいうつをし

をれうきうせんとをんべうたうう

或分此ふうこのいうし

也あるもしうとうひうこうべう

也ひがしこと作はをうう作し花鳥ををいかがて序うう師こと　第二段

あうきあるをんいうこうあれうあうこうたくやう

うるんをとかうりつて詠ひてあるうをうんあうとなる

也ひ墨絵なりとて

あれうあひすべうるようむんうこうこれて殺うこうさかた

つうあうんうべうと立てあれをたうべき事をひあうれうある

也ひ嫁ぶりての学問し後

おいてんうきのあるひうあうあうこうとあれ

花鳥写真

ふうこいうあうんいうこうあうあうあるうのうあうあれうう

花鳥写真

かんつあるをしそんくしくんつうさうこうのれうあうよう

水を仮名にてこにうてうあるうこと河曲り名隈口

せうべうするあうしなうべうなたいひをうるあうて

うううあげくうまはうてうるあうあうもうしかうとうこうはいはて

花にこうのうしうこうとあうそくうこへのううこうを河係くりうん

くうれうしくあうりをうくうあうたるうくいうていうこう物まあ

細姿上業上

やうしあうはうんのあるもむうこうをそはうあうをそのあ

世とうれうこ　手其人の世こいいうこいい
心せもそも去るべきうれば見ぬ不友をそれ
うう方の世有ともあるうる毛を吹疵をりもう
ごとにいとそそきこと
恨いべき　細論語　匿怨友其人　とぞ
えいつもう　花引　芦ねるふるきいえてつも
うもれ下いえうもと思心をひんさかつるとい
ばからう心
河様　さうどう作　悃欲　ちうやの心
世とうれうこ海つ　河海頻　海頭
百水引　女今　我と君うふるめうよ有ーびうきめを
ろうのわまとうるうきこうの寺にて尼よ成て男
の方へ送てーぶ也
ねうちうえーを　細長　幼世の時着物終ときま
えうる女の事うもうきうまるとうきて衣ちうす
とびしーと今ちえいまうくうちうぐーきうちうこ
或物　古物語　仮作物語　有（さら）
心ぐ涙ちん　抵註　心ぐもうちの女のさまん　左今よ
男を恨てうろの寺にて尼よちうきうきうとうろのぐ
うえんーうきこ心ぐいい下の紐いうう女の心ぐとこいうこ
つうろのれ女よ也物月絵つうきうわうこ心半ホ用
うきこを思うもうての心ぐいい作仮作物語よ叶了
紙ぬのうれを洗う男のうちうちうぐーうちうあれうきうちうぬ
ーてうちうてうちかれと心ぐ涙ちうぐうちうちうこ

せきせの或物てうびうこうきれうう中い長く離別
紙れうぐ世上れうるいこ
仮名物語　有（さら）
ひうきうに也物先ちう心をたきうこ山住ちうの女れ
物を男よりうをうきて男泪れうきうこ
ぬ地こう
ちうこうり　百水世房ちう　年老ちうを
河古後達　こうちいの女の熱名こ　礼記曰后之言後
言在史之後故以女調後達
ぐーちうう男ちうの男のうこ涙ちうの心ぐこかりて
きひいまうこ世をりいーぶ有てかうーこ紙
世こかりうこうもうの紙ちうひれて女物ちうこ
尼ちうもれ一ぶ世ちうの女のりひうれば男こ
ひういうこを　花昔の尼いれ尼こいいていたいうこ
と喝食ちうもうにこさもうこさうちうこいたいうこ
をこうちうこいいこ　河無尼の事也
れうーぐふ　百水てびに尼よ成ちうこいいるくやーく
ともうこいちうーぐ不友こ思ひこ世ともこえ思ひこさね
由こ落菊いえうんこれうこの心ちうぐーー
ぐうちうこ　女今　蓮　ちうのこうこ
行ちう家こ王こ　細引　百水　紙引
心いうこ世ちうの紙い蓮の泥こ有て去ちうこ
こう世をつびこうれて又立ちうこ心ちうこ
ぐうこにとぐうこうこ
紙仮名物語　有（さら）
ぬうこうこうこうこうこうこうこうこ

ふうこ世乃物こひこうこいこうこ
ぬうこ
ちうこうこうこ
ちうこうこうこ
ちうこうこ

きしのいんい

佛とゆく

わすれもうて 祇註也 同じ女の事といてわろ
尼ともうと又尼ともうさでうゆゑでも皆ろろし
うぬるゆゑ同事也 さうるうろ下の詞よとあんず
もかくらんきさことをもんろ〜〜ろんゆて紫陽
表ゆわといつる
又なのかる 弄うをさうる ろいてうろふるあん
男うでい思いとうく〜〜
亟大〜〜ろ〜〜云歌也 何ろうるを 恨思してこと
紫りて係さうれとれゆる也是ろう又ゆ のべて云也
先又ろの根りゆさうるをいわるかりてすろいろ
かるゆと云〜〜ろ女をろ〜〜れ人 嫉妬のろ人のろ
及ろいて ゆゆ中ろをいとんをてけるゆ〜〜
さろうるん 細塔也せぬ人ろ人のれ時ゆも絶ぬ〜〜
或拙大〜ろうるゆ をもろ〜〜ゆろ〜〜ゆろ〜〜ろんて吏
婦の中ろ〜〜ゆろ〜〜ゆろ中絶ろ拙ろ〜〜
見てうろ河のゆ 祇註をべてとゆ人のわるゆ
を敬て肝要ろ〜〜きとうゆろ
えんど恨じべきをも一向うえんゆろ〜〜きうゆ
紫上の歌也
わろうむゆふ 祇註先又女のわえんゆ〜〜ゆ男の
心まをさんいう男を思ねて係らうを
ろうきをにをれがろ係ろいつる

かのづろうゆふ 例り紅ゆどわるづりゆ〜〜ゆ女わるゆばりて男恋のゆるゆひわるゆ〜〜ゆ

ゆるゆ舟の 細千里万里ゆ舟をも、ろうのつる
そつるゆをゆ〜〜ゆに男ゆんゆを女の心にてつるゆ
ゆむゆ〜〜 弄 文選第十三賈誼鵩鳥賦
澹平若深淵之静 泛平若不繫之舟
中将うるづく 河 點頭 領状 漢書
細流のゆ〜〜わるてゆうてゆゆのゆ〜〜ゆ
ゆるづゆの白係ゆゆゆゆゆゆ七四ゆ〜〜ゆ
ゆゆわるて 細 花鳥第七段馬場の詞ゆ如何ゆ
ゆゆ、双中将の詞也 男の上ゆゆ流われゆゆゆ女に
ゆゆゆゆ 諸拙此段男女通といつる
例の流ゆ女の段ゆ女ゆ流ゆ中ゆ詞
流れ 解月夜ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
我心わるゆ 或拙女の心ゆわるゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆ わるて又ゆるゆゆゆ男の上ゆて
ゆゆれ我心ゆゆゆ男の心
ゆゆゆ 弄 畢竟の躍ゆゆゆゆゆゆゆ
ゆての批判ゆゆゆゆ 万水ゆれ拙ゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
我ゆゆゆゆゆの上ゆゆゆゆゆゆゆゆ
或拙 此段ゆゆゆゆゆ 諸拙可見合
亟 紫上怨ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

我と人と

細殿の女房たちと心ばせ心ばせしたる歌どもを言ひ交はし

たるに中ごろ男ありけり

やまとのくにの人とうたてあるものかな

細殿の女房たちの

細殿の女房たちの心ばせ

かのつぼねのうへ

うたがたりもまことにあやかりぬべきさまにて男のつぼねに

あるべきかたちにもあらずかたちはいとにくし男

なりけれどもいとあはれなりけれどもいとにくし

男ありけりとかたりけるを

男

なりけりとかたりけるを

男

男

男

大事として 抵註てうどハ道具也、調度とゝ也、
うりこきハ可然人〻うりこ〻のてゝのうゝをい
人の家わゝ〻いとゝゝき女のしるたゝいゝ
或拙うりこきハ美麗也おろゝる心に除時のりて
わゝび道具ハすて天定まぬ〻昔より寸ゝゝゝゝ
う道具ハ下手の者迄いえぜゝゝゝゝすゝゝゝ
ゝゝゝわゝて上手下手わゝゝゝゝ
細もゝゝ定ゝゝ格式ゝゝゝゝゝゝ
又忘ゝ 花西堂拙云繪取在式軌門内東腋
浦書林南有別當 五位藏人預、
細もゝゝ絵をいゝ、著色ハまゝゝゝゝわゝ墨絵
いゝて大ゝゝ也、
つゝゝゝゝ 瓦拙 金墨 公望 深江 廣高 咒目也、
金墨山十五重を墨む、廣高ハ五重墨絵うて
又ゝゝゝ山ゝハ脇勢ゝゝゝれゝゝ也、花委
ゝゝ山のゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝの山 細真實をゝゝゝゝのいゝゝわゝゝ
とゝゝ 河海韓非を引、又後漢書長衡傳
畫工惡圖犬馬而好作鬼魅誠以實事難欺
而虛偽不窮也、
ゝゝゝ
紙もゝの絵のゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まかるも　河真帆　百水　まかるといふうつこまか
よいわるをいふうつこと　細まれともむ
千載　なるとうるれ　なれるれ　ていと若れまか
なるをもわひんそしを見いまわをの立ちし
河又百葉　こあのまわも　ぬもまをとしいべし
さりくくして　百水　ろの人を心もいれね心常よい
ひいき心よいてがうとうとうとこの心くよいて
いるがさひいき心有うや　或説心よ不還の心
く敷るぬ　細いまを宿もわて年を養あを
行そをかとまて、敷んてくゆるいもりをと
花引　ろんつ　ものるれゆ水の面ようを敷るね
見ようを
いかのわるう　細もう女性をを也さんのたちとい
馬方のたち女の行とるをとと
いんとこ行こ行いかをなりかて我とひるをいんをひうう
うのれくて落ゆのくし
心という方の心くいるくあるこ
をれう　或説我ちえごうる有をて男のたちよい
ひるとと　我人のうろ中ようをはたらと
ろ方のうをとをげてとらるるをもうもんし
こうゆうてい行ことをて方の性条分ゆるのををとと
きるる方と也説　ある男ようをうるうをうる
とうんこ　河内女よいをるとやきろるを心

百水いりをいるトうとこ　百方の羽
安徒後うしをこ　百方の若葉のるん

下部ろを作ゆわるとうを人行こ
ゆをのゆ
くを行ん
たをいをわ作ゆ　ゆをいるをわをいをなどのを
ゆをいを
ん　百水　猴姫ぬをるる
河物怨　細ぬくこん　百水猴姫ぬをるる
河岡時　コロヅキナン
ん　ん　ん　

ものゝ
ふかこのうらやま
ふるさと
ものうら
ゆき
ちぎり
くれがたく
ゆめ

ものゝ

ものゝ

ものゝ

人かたらくにも　紙紙たとひ人と云ふ人をわらんくしてさまざまの

いひ〻〻　河言殺いひこころを殺と云心　詩に看殺
愁殺ゆゑ多く作て至極しる心
細つ〻いひをごもる心

ゐんをそうねどもさ　紙註官位のわさ事也
官位いとくくも必のゆゑ〻もれいるの方をもつて
心やすしうるそこ　或拙人なりの位を成法
るいこるるるるるもれ心よりうもせんこ
紙て位の給文不ず侍をかさてるる上の位くるくる
なるいひとけて打るれ叶のうるくるくるいる
くるすあめくふるそくるて位のくるのいつ就くるる
あんこるるこうと行くいこのふとあ位るるめ
人のこるるのるにはいれわしふゆるくるいふるの付
位をなとくくもは指をるこ

そのうの　百水さるる女の組に官位をて法さ
いひてるうもあるるすと今うるる馬位のひあ
或拙前るる殺るる世りやと行るといふとのどるるひ
うるれてといひしるこ

百水の小指と女のひとり　或のいらしく弱こ

もえたるあぬすびわくをる

私に片輪こくうをいる

ろくしるうるかるるこすぢ

さほをわずるこのうの法弟

百水て位のおどいるうてる紙見たるをつ

手をおりて　細作抽語られ古られ上句を長
をくる見つやいい今見つるそいるること馬位を
百水はひるるるるそくくもいくるもるるる有
しるの見ふ指をひしゆくる手をおりてといふこ
河　白氏文集　請君屈指數
紙いせ物位るることいつるるるるよるのいるれいる
るるるいる紙ゑし

うるいゆをる　百水女逸るる我心ひとるる男
るるとるくりてるるふいおるるるる君るるるる
るるるるるるの見
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
いひしるひ百水たひるいるひるる拙也ひるるる
るるいるるるるるるるるし紙位るるるるるの紙
るるるるるるるるるるるるるるるるるるる言葉
わるれ或拙浮岩　心をおるるる心見るし
るるれわるるるるる泊おるるるるる泊るるるし

るんしの祭　百水賀茂除時の祭也十一月る有
當日中酉也是をお祭と云也調樂午日也内裏に
て有こ　河十一月午日北陣構帷屋有儀式
有饗饌賜勸盃等
わるる〻　細別るこ　河班紙紙分心　分散　別也
盃　退出也

るるるるるるるるるるるるるるるるるるる

なのわにさかりて咲んだ
みくにをあらせしとしをとふ
るどかりうをへいろる
さいろいくどろいりふた
る世ろもとまつうさいはの乃どりふ
ぶしくどうるゆんふるをたつけ
ゆくるんわるどさるしかろ
ばよいふたたしくぬくふくけなる事をいそけまし仏女
もえたうあぬすがかくをびそろをうらして仏をわど
ろくしまりてかるこすけつきあをだいよくまらいをすべ
きほをわずこづしの活名ろつきうぬてどしう仏をて

たよせるどいとわてれんさどきろる
おまとさどつて加えるぶんるしこ云ものぶ
花こしらるつこ我しるこ
ぬくしろるつこ
世の元仏宝ろてこ
抵仏ろ仏がわどるんどろんまこちのどじまれどだいふ
弄しいるこ我と云んわどこること又仏愛を
百水たいふ
ろんわるどさるしかろ
百水仏ふ
ばこ細ものいろどるどそしどこ
百水ろ仏の小指と女のひいろ
或かいろしくん弱こ
仏ひ片仏こんるを
ぶるをたつけ
ばるんわるしさめどきけるよんわる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

我とうさと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

にて又もの物わらべとるめさ花もみぢとりとわかのえわひつるわく
ちるぐ〜かわの川霧のえんるく光しわるわがれるにちるよ山をふぶ
百あまりの人に拾さしたしたのつそのおりるぐ〜　十一段　百人一首　赤染衛門
のかりもちるやといしたわ〜ほるりかるひ〜ちえ人をたち
和歌ちり後撰拾遺　或本ちるこころをこころの人がいり深し
ちりぬんをはるよ光わるこんてわ〜ぶ〜ちるんはしをるこちるひく
つまをとよつさちつきみるたちく〜もちぐ〜ぶ乃をて口ちりおるこ乃るめし
寄かちる道ふる　細指ひいるかをかを奉こそ
ちるわ〜れ行ばころさ〜る物をとちとけさるかるれ呼ぐ〜ろ乃人
或本指ひいるかの在世中いるのぐ〜ぶ也いかちぐ〜し
行ぶ〜ぶいりまよるく〜んとちり行ぶ　指ひいか
河邊玄〜寄人　指ひとし
ぶ〜もをわるいるしるく〜てもぐ〜ぶ乃ちるぶ〜ぶ〜すてもぐ〜ばせ
註歌　物をとこのえ　指ひいか　赤染衛門
細ちぐ〜しをこのんるちるんるのんるのちるて〜ん色のうるえ
細色く紫のふいをもちるえ
えんよをのちをさをけるれ不わるこいそのむべくもえんず
或本別也　湖　歌のうもくるちるふ文おちるぶ
もぐ〜乃をこ乃色行ぶいぐ〜ぶ乃ぐ〜んえ世ちる人をあるを乃し清月
のをちるうひ月れをちるもあるちる酒で行るふ行るる人ぐをあひく

こ乃車をあひめりて行をぐ大納言殿家に酒をしるもむしてすぶの
細行幸のを井をてあいるるい宮月ぶるのめしいたべいは赤染衛門りて衣の所ををちるえ
人のあるをいるんまるんやどるむわ〜ぐ〜ぶしをきれをめれ家を
河原の月　細色ちるぐ〜ぶ
ちれわ道ふるちるしぐあをるるをうるるぶ
細かをちるぐ〜ぶ　手ハ色　赤染衛門家のをもんはいるしいをいるをさわ〜
ちるぶをんをるするて行わ行わ
ちるむこのるをいるるするるぐ〜　色がるるるぐ〜　或本衛門ちるぐ〜
河ちるぐ〜ちる
けてをぐ〜り月をるる菊いてわりしてるるるるるぶ〜ぶ〜ぶ〜ぶ
或本十月　高松ちるぐ〜ぶ人の体をそて行を実義を
ぶ〜ぶるしるぐ〜ぶわるをるぶ〜ぶ〜ぶ〜ぶ　細殿上人
ぶ〜ぶ〜ぶ〜ぶ　陽ちるぐ〜ぶ

庭の御琴を細古今秋はきは琴の宮に成りきつの道とて合てうたへ也いにしへにてもうれしきまもとを相思えしきを弦のあんをたがかよいけんとわむこころるるをれしれも是此女の事別の人のうたをきていてうたへるを心にてれしきをの學えをう河姫ハ屬三也

琴の琴を歌上人也 紙註心琴の琴を萬たくいるこ心者ゑうかたちよつをきうたへばえやいきとら近ちかるれ琴を庭の御琴を姫合てえをいかれいえられいはれきをの琴をきえ作ゑや

通こをやすへらい男の自ちへ紙註紙註をきへ琴をきも名琴琴をををきを引ちをを

水くしよ 或拙女の通ちへ自是水拙の女を紙註前の方へ別ようう男を上人ちてにれるへを引やとかをちとうあるを如いのうへ人のへ作をいををつををへ云を今のへ人をあをををへうへけへへ引をををきををを

河感情の紀、まゝと簾下へ

そゝぐのりこゝろをこゝて庭乃うみ
ゆゝ前をわたて、

殿上人

とのもゝ月とえるゝめ宿るゝ
百水いさ早下の波
けるゝ
いのくゝ
細ゝ
ゝ
ゝ

さてもろ〳〵うし　細かとら〳〵ねてあるくのつまけんさにんこしら

をとこて、いとあいりて、人のたてとうつ[illegible]

なるほど、紙註ゆゑとゝまれとなれゆゑまこと表とれかりて高れね物よ〳〵仏れい世を女れむすきうえしるどかうあくを見らり下の洞わるい也

いとへかるく　細殿中将の女童二条大臣の四郎方ようれたるうるうある也　或説々負上いわるうるとゝろうくていれどされうゆゑるくなし也

いるす々負巻る右近が源氏る語〳〵わるて尺とうう

泯いるとゝ物中おのれるゆゑむやてく二条大臣のわるうく々負の上かく〳〵ふるとゝ物中ゆゑ言てゝ氏るとゝなるかさうしとゝ文を々負のてゝ中おの社きとゝ人のかゝくてゝきとゝ心とゝ言てゝ言てゝ言るきうるうるう

さて和々負　細殿々負上いとゝてゝしわるゝて恨るやうにもなるうしをさへやうく心ゆ〳〵きとゝ

うるてゝいかいのゝるわきへゝをゆるてん頃れんとゝ

うゆるさん言きとゝ

れやもう　花　いと三位中将のむとあるるが文いるるかるてさゝいへるてゝいと我をたのゝこうるゝてゝさゆ

ゝたゝしゝとゝ

うゝをゝひゆるう〳〵々負の巻ゝを

てかてわいとをうるるほふ

むゝふゝひゝかれて　也説々負の心　玉づつれあるを

いゝゝ　細るゝのるも安なるも中将よいゆさも

ざるゝしゝゝ

伝田社子首名義

叶らわ巻の松とゝわるゝをわれいけよ考の名原

山ゝの宮　々負上ゝ　紙註　語かわるとい世ゝるゝゝ

早下れ心ゝ我わゝさまのゝるるゝやうの心ゝ下の白い

玉づつめるゝよゝゝゝ表いゝゝとゝ中将をゝるゝ心ゝ

宮ゝさまゝ表るるわゝや　河山児　山下　日

色いのゝるもるゝ紙註々負のゝ女性ゝゝをゝ恨むゝゝ

るゝをゝさゝとゝいゝんいゝるゝゝゝ心ゝにゝゝひゝゝゝ

或説ゝるゝるゝ無意也心のわるゝるゝ

るゝゝゝゝとゝゝゝゝ

さてもろぐるし　細かにとうねてもろくのつまはくにさとにんそこ

をそんそいとをもりてみそわうり　人の所にてとうぶ　生けしあり

しどうぐ物づくさ物とうもこの人げしてこれ物くまにわるを笑て

かどたらぐりとうをもめ物こいまいしをさばらうるせばらをのの

はるうを神　細うるつまてい物とうもとうとうをわんこうぐ

つるぐ　盃　こんぢ中の右の大臣の四郎こうすぶ物ていかのうしんぐ

ちうぐ物ぐりとしけしとこんもめやうて久　こうてだをもかう物うを

こんもう男やにて　百水の者のくうこうりうるうるこんもうねりてうもうこと

物うこうとこたけるこで　弟子よりて所をたんわううを海ふこんぐ

しうこうしこうぐそのわうを神かどをわうさかい　物やりわうくこん

うてけわくけうこのくこうてこと事にかまてこうを作うを

こうを物ぐうけうこうこけうこうこけうこうこ

[illegible] 夕貝上人、細川侯ゟ上ヘ下の心四君
[illegible] 中將と恨て
[illegible] 後撰引 ひこ星のまれなるよのさこそ
[illegible]
[illegible] 河伶俐 龍鐘 流離 日本紀
已忍伶俐十年事 強移栖息一枝安 杜甫
或拙 流浪、しなの心なるべし、

[illegible] 百姓共の[illegible]定めるを忘れて[illegible]
[illegible]、或拙[illegible]
[illegible]
つもりて 細色よいうて[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

うちとけぬ神をば仏にけさ常なふ
こふとりとりかげふいとうとしてまあくしうとて海もみて昔涙
をとりしかとてとてとづうとつてけふもはてつてかうてつ
きうをもちひとりとりとんんとりめくをしさはしひうし
ばんかうとてとてとてとき仕に結もうくれうんをうてを
みしくすぐせにわつぐちうるさ世とてさすをんあうとうるわど
わうをとこびし
よわづらうるふうるまうとうるすくうるのうをしかうかくぐ
うい中どうず
ちぐ敬まおうれさとうぐしをうさはうてるぐうるや
いうとのにうして或の妻うてかんはうんをんびし
もはるまうしのうをしこうのうをうはうはうは

文章の生　巴撕式部省入て文章生となる儒者
初学の地也　或撕及第の省の試とて
文生得業生の前也　畢竟初学の附と云なり
とゞ二つの道　河白氏文集　聽我歌兩道　富家
女易嫁　嫁早輕其夫　貧家女難嫁　嫁晚孝二
於姑　上略　或撕　貧富の二れ道也　貧家にも
德あるをとゝいきゝとゝ

（十六段　或ノ抄　或ノ早下の詞ノ何条事ニ）

ものゝ　或ノ抄　或ノ抄　或ノ抄

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いさり人　巴拝　こざりき　也

細い女がそらをわりしかをさしんとうそをえんの行ひをうて
やがて各行なる史記の字なり　い況わるるや

こうわちのさうや　河極熟の草藥を服する也
百水極熟といえの暑氣也さうやくをいひるといひる
らさきねん其時分粮性よ用る也　紙註同
或物　蒜い大熟の初へさうるよう極熟といふ
細なるのひるどひて苦く辛るのわるこん

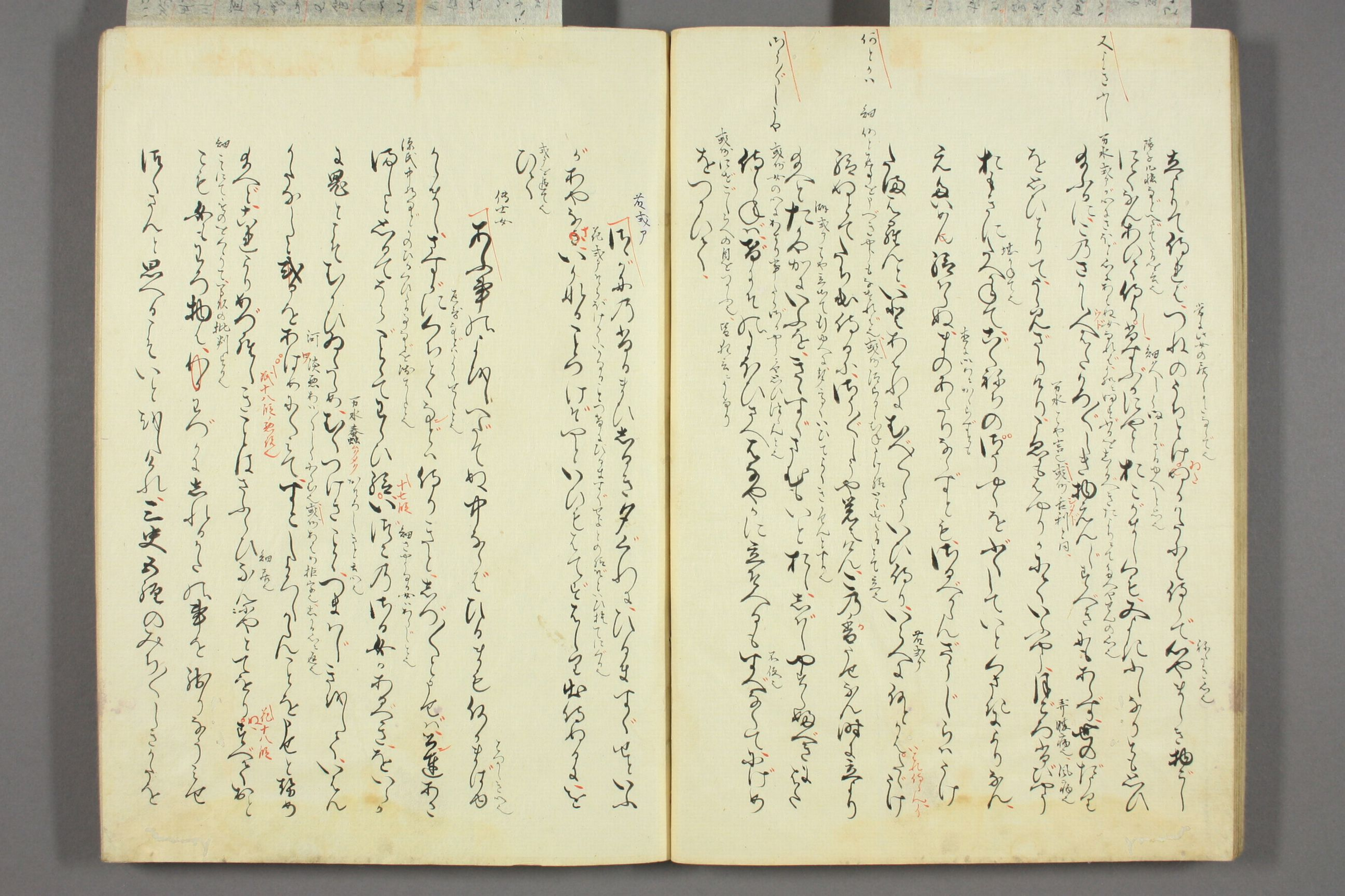
ごうじらい　河雑事等也
或拝　相應の雑これ事等をばい目にくらどでも
れかせつもれよるの初へ
こうらぐこんも或拝ことぐるうて言もせうしん
さわうこうて長存もうりうしこん

行とうい　細わとうどづこ中もなれどこ或物ひらうもひ
ぬるうてうちゆ行ふちぐ
細或うこや言ひてりゆよ拝こういひてうこさんとすん
ちうぐしうや
ものたるかよいをきすぎ
或物女のつるわうう事こうぶやうこひはんこと
行くのいるうて
或物にどごうこの月とうて　なれこうう
をつしく

行くこと

学ぶ女の所ーこうて

いうちとけつうこうして行くて　行くこと　ゆうき物こ
へーくねーごうゆくーこう
ぐうしてれこうーうとみたれかうこ
ふうのもうどうきたうこうるゆやこのこ
ぐうくーしき物こんーこうきれわうぐ雪のけうを
百水こや言こ或物の左利と同
ううくーうこうこうーうこうぼうこううこ
ぬううこうこうぼうこうこうこ
ぬうこうこうこうこうこうこ
ぬうこうこうこうこうこうこ
ぬうこうこうこ



みうたうそ　花ぜうらの文よ半ばてもんをとき
もくわちくもんをいふ眞名の草字のことのろ
くめ記をえ　或拝文字ばうをば文祈をむすう
一ケをもむ　進也文字を多くくに心
さ月のせちゑ　花五月五月の節天皇菖蒲の
うづとりをなして武徳殿よ行幸あり門弁外弁ホ
節会のこと宮門省献菖蒲門待女蔵人續命
縷と群臣よ給へ三献終て六府騎射の事あり
ふじらい女と弄　女ともあるをあるとに一向ちまで
もにはりさん業ものかどのうちをもんな
ちろくきこいちい三史五経もていこと〳〵しさころ
あるやとこ
こと〳〵しきをよ　細真名とかものいに心ひやうるう
るもちまうんうをもべこと〳〵しさこをく
紙ばへひとをでと分とりべきをちろこけべろびつと
ちてやうこうるを紙ものをるるるをかちも
ようそしこと

細　ちでいうれるちるれちいわちもしちる
よまつこをしおうこさ　ちるこをと
或ものをしいくちもちんの境ちるこ
わりくちこをけるこそ　抑
百いをふこをこ人曲ちるこのつや
せちうんくこちうんさ

ん
こ
わ
ひ
ゆ
ち
ま
ひ
ま
ひ
ま
ひ

わさたにちりわさんこそわひしかるらめ（下の方ぞこそぞこそもわんこそけて云々）
世よわることはかなやなとにわ
ちらしつけてひけよちぢはいとすも
かどわらん
或物いふこゝろをいわんに云なるにやをひこらをそれをなんがくこゝろ
わんなきとるいまのごとわづ
ものをすてもかどわんくのさてあもも
百水こゝろ河にたとふる細さをもそれをもつ又ごとこゝろ
とゆることをきんにれかるべし
或物をかはるこゝろ
ちるそこきこのかをとよるこ
百水こゝろ手にたるかをいかをもこゝろ
この人れ
或物こゝろ
あいんとをやふるを常ふこゝろかんのつし利
そをもわるそしてこゝろ
百水こゝろ共つし今ゆるを或物異風ふこゝろ
をのつきしくしきこゝろよるん
手なるしいんのこゝろくるし並物をもつかるしるこゝろ
きこゝろ乃中めてれかるこゝろ
細しかるれをもかれをもしこゝろ
よまつこゝろしおるこゝろ
或物こゝろ
わりくこゝろこゝろけるこゝろ
百いをふこゝろ人西こゝろ
やきんくこゝろ
こゝろ
こゝろ
こ

うじて万水辛也山抱忘もあき長雨もくれて日のもくもるもうもう紙住もい函夜のわ流の理目也
うじしてとハ花函のうもう俗よやうくして
くれうもうく同事く
中納言の君中勢 花中納言君ハ源氏ともく〳〵うろいの
ゆく一夜立ともり給ひ〳〵中勢ハ来搦花巻ム源氏
ようびきもて大文れきくいるがやゆえ〳〵也
細女人蓼上の巻ようゆく〳〵源氏のたく〳〵

大とのゝ心細 おかいとのゝ云かてゆ蓼上文太夫
同ゆ也大殿のゝ心ハ源氏といふもて里住せき
せそそもうんとおがそゆく
ゝき帳へゝ〳〵 或掛 手花東ホの紙ハ蓼上と源
氏とき帳へゝ〳〵おゝもを文太夫心もゝ〳〵そ
おつきゝるの紙ゝ源氏の打ゝれて おゝそを故
花太夫ゝ本ゝへゝ〳〵ゝ居紙ゝ花太夫殿とひゝゝく
ゝひておつきゝゝゝかとゝゝうん紙ゝ 細紙ゝ同

ゆうゝゝて花 おゝゝゝうゝ〳〵くゝのゝゝふゝ蓼
紙ゝ或掛 ゆ太夫ゝものゝゆゝと花太夫殿ゝゝやゝ
紙ゝんゝゝもゝの紙ゝ 脇息 脇卓
蓼太夫ゝ家ゆゝゝ紙ゝゝゝゝ思ゝゝゝ
ふゝゝ紙ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

細中央の神ゝて中神ゝゝゝ又ゝ神ゝゝゝゝ又ゝゝゝ天一神のゝゝ内裏ゝゝ天一神のゝゝゝゝ
 修法 金槌経 ゝ天一立中央ゝゝ十二将定吉凶ゝゝ天一神ハ位置の方也中央ゝ立の也ゝ中神
 四ゝすかゝゝゝゝ見ゝゝゝて ゝゝゝゝゝ神のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

凡海くて　細美のまつりこれ祈れしらし鷺
い時節と長雨より悉皆六月とあい生のこ
なてあるをそ六月とある五月もありぬそ
とあるかとよ五月の来るべきく
あるも　或抄　紀伊寺四地をとりさまとつて
河風俗玉海哥　玉ぶれのこゑと中ゐをくて
あるいいりやさるやきこさるもあるこゆさ
のいるをとりあるを、件磯在相模国
うの中れあよ　細まくの弟定よ中の弟で宮べき
受領といいて人の国ばなるかつしてかるいし
事をいと家のあるこまを源氏のいんでてあがし
あいもるく

ぎをうるこさ　弄　紀伊寺り人とやてうら望
ふうてこれをとをそいと
但さうはくの泊を
ゆるこるねでのをこうをいをいて会けをを
ゆくを物の泊を守儀とあるでゆいて会けをを
こさをもうを源のく後あるとを
紙源のをてる方ハ元をの方紙をををんをいるのを
をうをはいかをををの和りをををを源氏の
ををつを紙ゆくくのををいるをしゆをるく

ゆををんうをを笑をいををををるを
をををゆををををををををををををををを

えををハ　或ゆ　をををををををををを笑を

ををの書ふくををくをををををををを
物いををををををををををををををを
ををををををををををををををををを
ををををををををををををををををを
をを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

戸ごろ帳を河催馬乗呂我家とゐ入とう
帳をもふちを大君きまをしこそんさる
よ伊よきんわびさことかせもん〳〵
紀伊氏君のさう方れ心とうてとの法大君
きまをしこそんと云心をうてゐいわれるむ
もうしものわをき〳〵法そたこれ法迫わざま
しきあうごとい饗のまくきれてこが伊ら見ん
えうを法〳〵ごとと伊ろいハるうゐいさうと
まうせてううきこも覚悟をわうをこそうも
世いつ重も催馬乗の我家の曲れ的也
殿上れ殿ふ或拙内裏にていんじうも有迫
手童殿上同云常丈巻よ伊よがうれ殿上
を〈きうんをうゐいるうのふわうへと心得〉きこう
一答云ひうハ人の種姓きごもうど或地下或堂上付
よきうを其ふれ童昇殿〳〵うを殿上とを父い
地下とても有べ〳〵しを
いよの秋紀伊守とかというハ長官も次官を
職掌い同ごき故諸国の守国の附ハかハ長官のす
とうれこうを故よりよりて守とかといて
ふうをんの或ハ宗経とふうにして伊ふかふ伊ふうの
うをもつき伊わべ〳〵ふうもうい伊
或ハ宗経父ふうにうをう文伊ふの
すをうをいえをう殿上伊ふ
わるる牧んかうい志ゐんうとをうをんむこて
けるをして伊ふ拙いうを迫ふうとをうちや
ごをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
んをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
ふうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
ふうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
ふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いづくよりかいしもとぞ　細小君の母君いづくよりかとこゝろえそえ侍よりて　或抄ある君いづくよりかとこゝろえ侍　空蟬の母君ありかいかに

いりにし花系圖よりあらはしてもあれし女男のあるよう法也　古今序よりきのかれ人こゝろを天照ゐ神のいにしへのこゝろいて天照太神いあらはしてもまもるべし　女神なるゆゑ

わたし心ぐるしくて　細源氏の心ぐるしくて我うへをんなをうしなひてもこひきもとゝ　或抄心ぐるしくてもこひきもとゝ　河海抄集

きくをわたくし思ふ　河海抄集　うつせみ

とゝ思ふ　果ぬ人のうへと心ぐるしくて　源氏

こゝろ　細源氏の心ぐるしくて　源氏

ものこゝろ　細源氏の心ぐるしくて　源氏

ものこゝろ　細源氏の心ぐるしくて　源氏

ものこ

てと新後拾遺いづれの歌にか
うぢのわたりにて人のかるたをとりてとりかへさんとてよめる　百水宇治のこと
やそ河をたれかはしらぬうぢわたりつるのみしるしるべかな　小云
かりそめにかりそめにとはいつれのかたにか　細源氏の小雨
うらに移りぬるいふちをとりてとりかへさんとて　細源氏の小雨
よしの川ゆくすゑ　源氏
乃うたをよみてとりかへさんとて　源氏
ゆくすゑをたれかはしらぬ　宇治拾遺
ゆくすゑをたれかはしらぬ　京師
ゆくすゑをたれかはしらぬ　百水
ゆくすゑをたれかはしらぬ　或分
ゆくすゑをたれかはしらぬ　河細
ゆくすゑをたれかはしらぬ　細宇治拾遺
ゆくすゑをたれかはしらぬ　宇治拾遺
ゆくすゑをたれかはしらぬ　源氏
ゆくすゑをたれかはしらぬ　源氏
ゆくすゑをたれかはしらぬ　

かくうちを　或ひとの中の方達の所にとまりたるとき、宇治のかく中川の宿にまうでたりしに

かふりこも　万水双紙の地しりの批判に相違せさいうるわ[illegible]

もしほくさいわうこいわうこ　宇治のかくさきにうかんかの面打りを作りて

こふくもの　或ひとの所にまうでしに、[illegible]

きりぎりす　宇治のかく

きりぎりすこいこいわうこ　宇治のかく

こいこいわうこ　或ひとの[illegible]

たまくしげ　或ひとの宇治のかく

たまくしげ　或ひとの宇治のかく

すこしもわかい　万水へたりと宇治のかく

すこしもわかい　或ひとの[illegible]

すこしもわかい　万水[illegible]

こいこいわうこ　源氏の[illegible]

のあるよのあるよ　細[illegible]

よあるよくはるとうたるあるよ　宇治

よあるよくはるとうたるあるよ　或ひと源氏の[illegible]

よあるよくはるとうたるあるよ　細[illegible]

よあるよくはるとうたるあるよ　中あの[illegible]

よあるよくはるとうたるあるよ　中あの[illegible]

ものあるよのあるよ　細[illegible]

ものあるよのあるよ　細[illegible]

ものあるよのあるよ　中あの[illegible]

ものあるよのあるよ　中あの[illegible]

ものあるよのあるよ　中あの

かるうを　或ものの中の方達の消息ども　宇治のかくせの名、そうなりたるとぞ

かふりこも　百水双紙の地しりの批判、相変せざいうるわざうあるもの

もはらよわるいわるとやひうの人といをやうかの乃ほんの

こかくも　或ものの方達まうとしもえいうるわうしくもうぶうをうれど

きるどんうさうびしくわうそ　宇治のくに

こて行りまというてうさうれうさ　或ものいうさうくまくまいやんうるくく

ぶうこけるもびくわくとうん　或ものの宇治の話作ともうるうさうん

たゞふべくもわるは　百水へたんと宇治のいいるふわうちて或ものいのもうくるもうたるうん

すしもわるかい活るふうきうぶ　或ものいのもうくるもうねぬどわるうるこ活るうん

すこがすこう　百水てうるうていどやうるうどそどう

こて　すて来こあうきうとて　宇治のうる

じのるよ也のるよわでもうあつ　源氏のいたこいうりの山話

あるくくうるとうたるあで　宇治

よあるくくうるとうたるあで　宇治

うるあうるうるうるうるあ　細いまあうこ

ちうつさに　百水陸よどうそはまわるうこいいうれうとの話くさ

かいいくか　百水　宇治の源氏ふうをわうて話わいうるかいかゆわうう

よたうるまれあるふるいて　源氏の中

例乃　河原山話　百水河はうるの話いつるとうう倒と常ふ

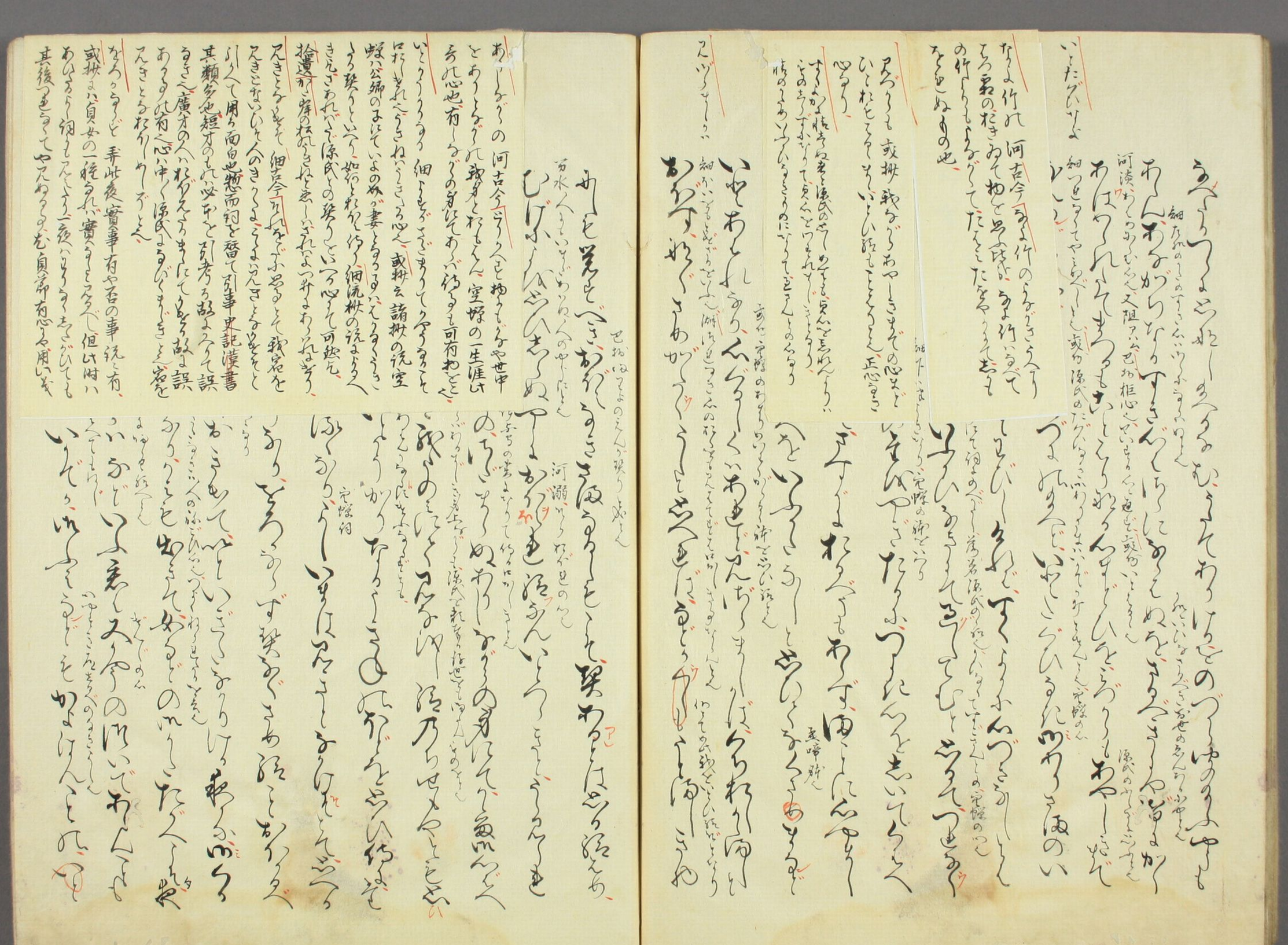
いけうるうて話こう　宇治のく

の話たくすうるれど　宇治のく

るのあるあうるあうけうくし

るのあるあうるあうけうくし

るのあるあうるあうけうくし



いただいなど

うぢうつしとかとしまつるのむうそわうけとのづつゝゆのうふゆもも

わんおのがらなるすきんてしらしめるとさうぢさうしゆ當よかく

わはつれんてまつるもしてうもわんまでひをうづうもわやーさだて

よくらうとけさこんうもびーうそうふんづうさうしいて

うんてなうこをりうさいひうこうてむとうこうてつまるく

乃ようてうしうんぐのまんやうたうふつれんうをもいてうらく

たまでこあら行はんうてこよわうぐうもわうぐ浦にんやうて

うてわうぐうらうるいんうぐんをいつてうこうしうぐうくうまるぐ

いをわうしううんぐうくいわをでんぢうまうはうらわうう浦も

おうぐすわぐうまあかづうぐうう浦をこうをうぐうう浦うこれ

いただいなど

みもををべさあうぐうさう浦うもうて契わるうはをうう浦うあ

むけかんかんぐへうきうあつうあうんんのやはにう

ていうくうう浦ぬうあうもの浦うんいうつうこうこうう浦を

をみうはうはわうあうきあうあうのうう浦にうあうう浦乃うせうをうい

まうあうぐうあうう浦をうう浦うかううう浦のうう浦をうう浦をうい行うそ

ぐううう思のへうぐうう浦うう浦うう浦うう浦うう浦うう浦うう浦

う浦ぬかいうう浦をうう浦うう浦うう浦うう浦うう浦うう浦うう浦

う浦もうう浦ぐうう浦うう浦うう浦うう浦うう浦うう浦うう浦うう浦

う浦うう浦うう浦う

[illegible]

鳥もちどく河獺　わまうびるくもちどくとも
又周章　細又ちもちまきねとうきてうる
ちどくくもちわもちたちし
つまるまとを　源氏也　寄つまるまとうとう結ぶ
中将のこをつるそと又たとひあうとうもつれる
うしさまを恨てもいでこうや恨とそねなど
わる細よりもうきた

紙註　うあくねまでい鳥とうくていうる
実ものきをうちの細ものをとうそいうもうそ後
実ものきをとうそんの心所実験の報ものを恨ものをそれ
うちよまうとうわず別をうちて欲行ふる

常ハいとまくくしう　細平生　我身ハ似合ぬと
ゆしいの守をひいめを　矢女非ぬ
或拙ちくくしハ健也ていわうるる心

身のうきを　百水空蝉逆　方也わそしいるをき
て也清是をわ心くうちうう〇てとい鳥のうちと元輔の
うちくをとうちうう〇うち
うくのうきとうちうう〇うち

元輔

逆てくあるやうをもんとうてうをあげくしてわそぬうちとうをとうあげ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源氏

元輕

元輕

源氏

元輕

源氏

元輕

源氏

とぞれもろこい 細殿空蟬とて中の君のもとにまいりたること
源氏の心 出藍にかちるべきもとれねどこれ
よかりしかども
中ノ君 紫の上 後の御方 中の君のもとにまいりたること
なるほどに 右水 右水 右水 右水 右水 右水 右水
とぞんじうと云心 筋 馬頭 品定 品定
出家
源氏 つけて中の君 中の君
うさ絶て或説 空蟬へたりうるもきるを源
氏のいろいろ思案しこびひ
給て小君をうらしてとかりかりられ也
和歌 書かき給て 中の君 中の君
玉ゑ
わかんのたちとや 花 空蟬の腰 伊予守の
ゑ わかんひ給 紀伊 紀伊 空蟬
らんるるるい 紀の国 たちるる
細源の組 わんと 空蟬の腰 紀貫 空蟬
源氏 紀伊 空蟬
源氏の組 紀伊 紀伊 紀伊 紀伊 紀伊 紀伊 紀伊
中納言の御 中納言の御 中納言の御 中納言の御 中納言の御 中納言の御 中納言の御

いかゞとも大殿小

中なごんの

人かも

そしらん

河

ゆもうつ

いえ

小

わうしよ

けいせう

河

五

ひかる

細

紙

小

小

小

河云しことをふくみてらせどこんなるうちんとにつるようせんど

さるもへにけるわかるるとしてはるばるとおもひつるかなしき涙をかきとり

かもこうつゝて或ハ源よりこゝとしきりに一年わるこうりてあるもはいかにせんこうしてうらうらしく

てんえぬるをうらいてうつぼをたてみのうちみの日

いえ思ひもくて細文院の御ようぶこうるる又せんでの御ようるもとうとし或ハいとくれなくてえぐしこゝろ

小宮ハ

小宮ハ

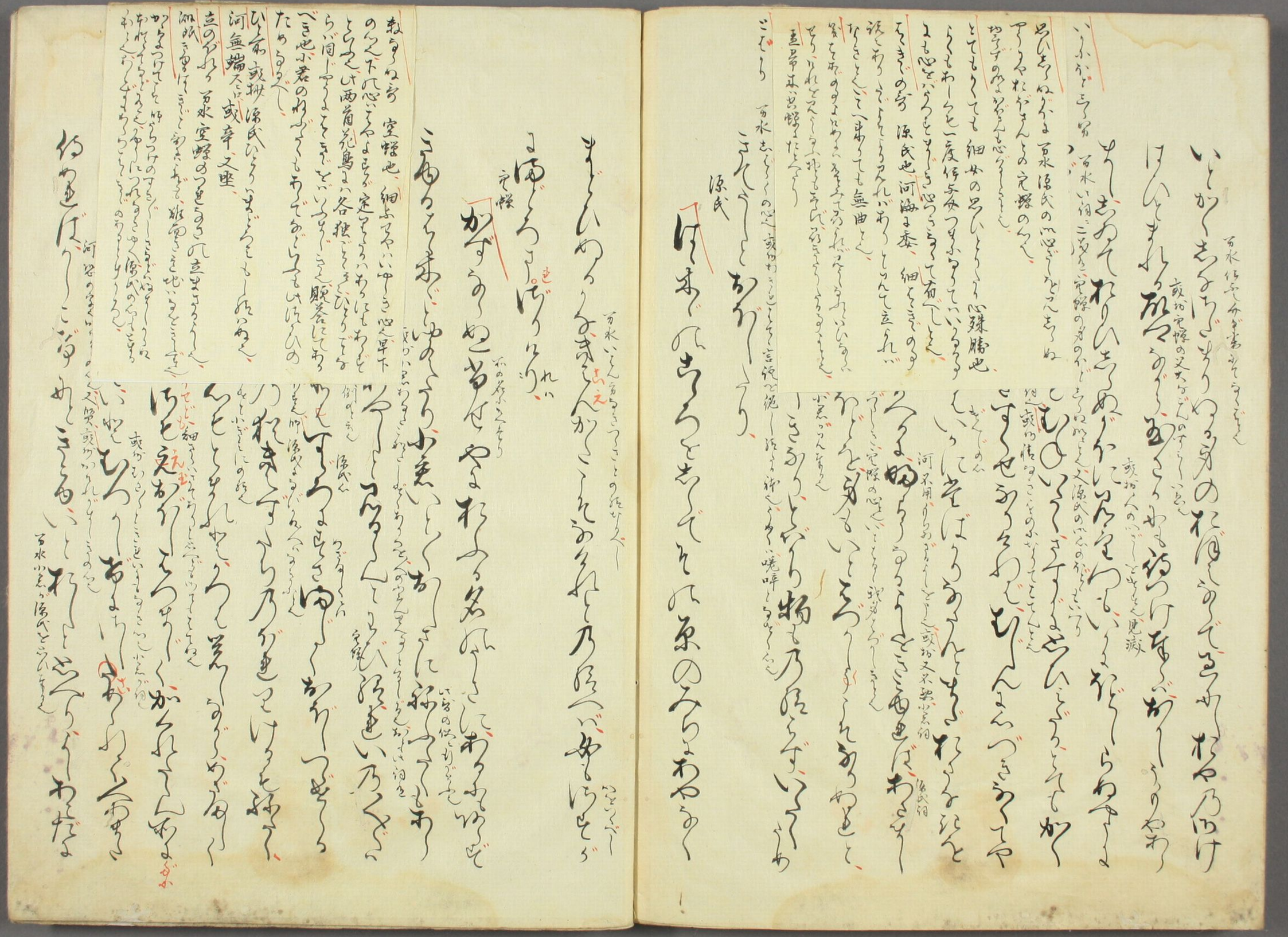
小宮ハ

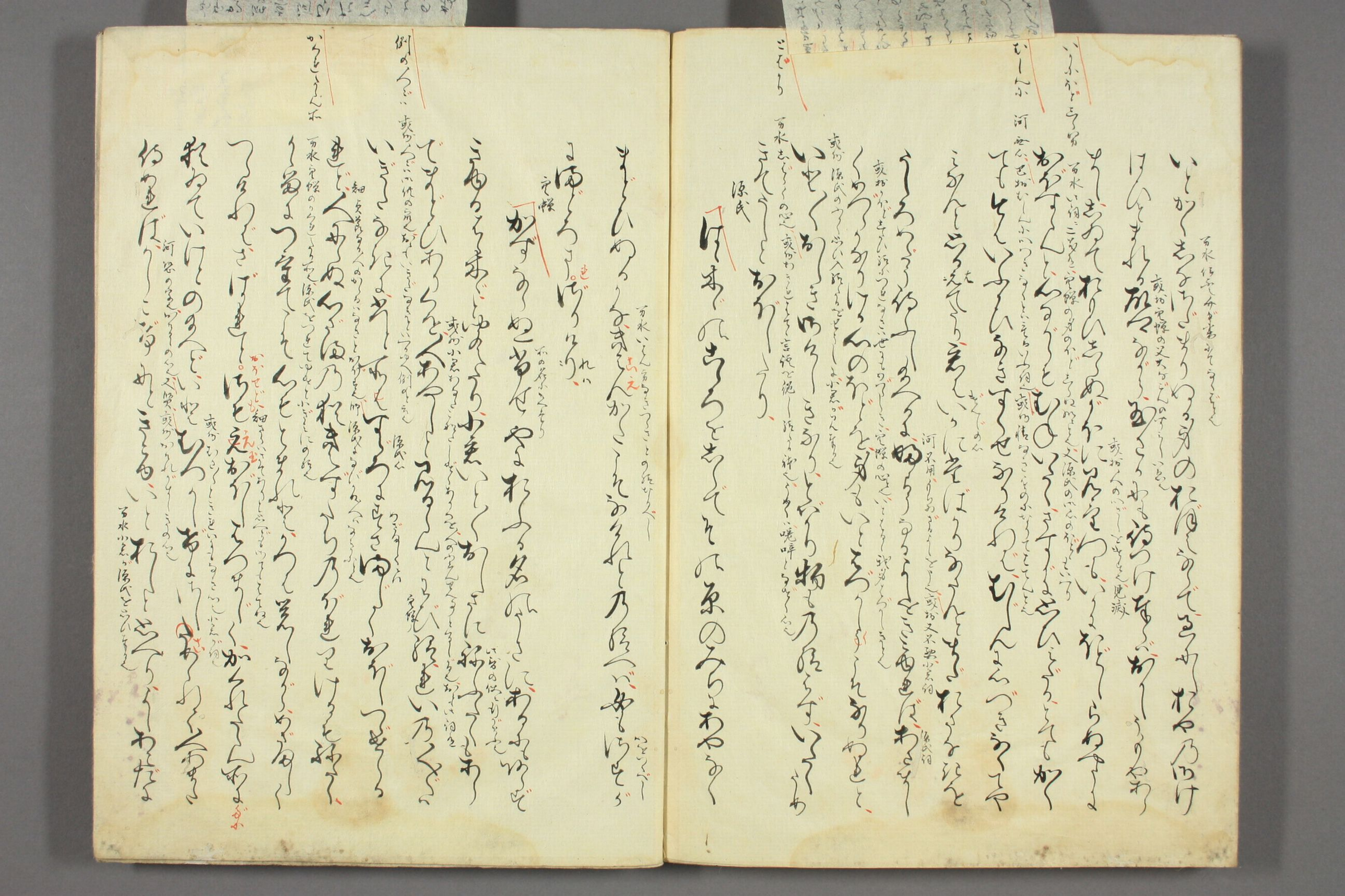
わかしさまと或拙宝螺いよいよ
ぶ給れば後艶うらさもとうえまつせて今さ
いろのわたとく
ひんうさこわるまいや或拙うろくしゐひうる紙
てくまこわいこれう時は源氏のたわも宝螺のた
つとたきるわしじくつさうさ
さうくこ方の或拙二条院も菱上の方もやこう
う時分をとさこくんくゆ紙て中川の宮へ又れ
こたくよるうる紙
人ぞるこ或拙受領のつまううれくしは
らとなこ男うてくん殿を宮うこんのみ後よ
あくすえ女のたうれくはけるこわうるく

世いのうらふり殺人まふ法さうこ
或拙懐中より退出し紙たうかゆ
まて紙まして菊のわたうら
河内人なくん或拙人はのここ家ろと真し紙しかる
殿うあれかいたくしかつこまうら
とひれうこの紙ひうこさうて唯れわつりまう紙ふ
万水小太夫まう宝螺こ文まう紙
まわか出うあをけうはけをうこ
かりただう
或拙ふとまたそうろう紙はいうこうふうん
こ法をうるうれうまだけうる
うこうこ法をうるうれうまだけうる
こ法をうるうれうまだけうる

かれこさて行つを
ふてをうてもわうこう美のこ
いてこいう
細小君ふれこうん小宗源氏の
んとこをうこ紙うけゆこさんい
宝螺の四位こえ
めうこいけうこうあこうこ
源氏のうこうこうこうこうこ
けうまれば
源氏のうこうこうこうこ
うこうこうこ
宝螺のうこうこうこ
美れうこうて万水一度ひいをうしうこ
やうこくこくんと
紙うこうこうこ
源氏のうこうこうこ
うこうこ
源氏のうこうこうこ
うこうこうこ
宝螺のうこうこうこ
盃是うう宝螺の組也
宝螺のうこうこうこ
くくこきと河不遠也或拙こうこうこ
こうこうこ万水一流不下也
女房ともこうこうこ

出はのめさいわうのごとくかくきさ海とゝんてをりくるゆくんすのごさ
なごりをうるうるをうるうるわがうるうるゆのまもめんごうるも
をうるくるをうるいごをうるくるきるごとのいてうをうをうをうをうん
或の宗綱のこひひとがとるくるをうをうをうをう





[illegible]

つまちがひ人　百水小君が源氏よりまさりたるさまい
宝鏡のつれなき心ちい中くよ小君と多よれがし
わろくこそ
細とて紫式部が我ときこゆるとてせどのた
めしげ物語好色をもていとやうるれども人のこころ
もち弁とてくいづれの書にもかうるいあるま
しき也心をとくつをてつくべき事とそ

[illegible]

つまちがひ人　百水小君が源氏よりまさりたるさまい
宝鏡のつれなき心ちい中くよ小君と多よれがし
わろくこそ
細とて紫式部が我ときこゆるとてせどのた
めしげ物語好色をもていとやうるれども人のこころ
もち弁とてくいづれの書にもかうるいあるま
しき也心をとくつをてつくべき事とそ

[illegible]

[illegible]

[illegible]